

お慶びと歓迎のご挨拶

この度、第30回日本皮膚外科学会の総会・学術集会が、兵庫医科大学内で開催されることに対し、大原國章理事長を始めとする全会員の方々に本学を代表して、心からのお慶びと歓迎の意を表したいと思います。また、このような晴れのある学会を本学の伊藤孝明が会長として主宰させていただくことは本学にとって大変光栄なことであり、これについても厚くお礼を申し上げる次第です。

さて、人間の歴史の時代を劃する大きな節目には、平生は感じることのない特別な感慨が生まれるものですが、今年はそのビンテージ・イヤーに当たり、全国レベルの「戦後70年」をはじめ数多くの節目に彩られています。本会場の周辺でも阪神・淡路大震災から20年、JR西日本列車事故から10年、また、直ぐお隣の甲子園球場でも、夏の高校野球開始から100周年、阪神タイガース創立80周年が喧伝されていますが、そんな現世の中、会員の方々にとって何よりも大きな節目は、「かつての勉強会」から進化した日本皮膚外科学会の30周年であり、皆さん方は改めて背筋の伸びる想いをしておられることでしょう。

見方を変えれば、わが国では先進国から少し遅れながらも、皮膚科の専門領域に外科的手技が取り入れられるようになってから30^{たび}度の春秋を経た所ではありますが、15歳にして学を志し、30歳にして立つという孔子の古い言葉に従えば、漸く前奏曲を演じ終えたばかりのようにも思えます。

しかし、本学会のプログラムを拝見していくと、オーケストラの各員が、経験に基きつつアカデミックな労作を合奏すべく満を持している様子が伺え、その意気込みが門外漢の素人にも伝わってくるような気がします。

どうか、自らの母校の皮膚外科の発展に寄与するだけでなく、本学会の萌芽にも一役買った伊藤会長という天衣無縫の鬼才の名指揮の下、本会の30周年記念を美しいハーモニーで飾ってください。

幸い、本会場の所在する西宮は、瀬戸内海の海の幸、六甲山の山の幸、更には灘五郷の神酒に恵まれ、皆さんの演奏を引き立ててくれることと思いますが、そこから生まれる楽の音を今後の日本皮膚外科学の発展の糧にしてくだされれば幸いです。

平成27年9月

学校法人 兵庫医科大学
理事長 新家 莊平